

楽しかった時期は、子供たちが独立してから

Y・Mさん(九十四歳・女性)



生まれは、栃木県の足利市です。昭和六年の満州事変が始ま

った年に生まれて、小学校入って四年で戦争が始まって、小学校は全部国民学校に。次に高等女学校に入って出る時が高等学校になった。戦争中ですからいろいろ苦労しました。高校卒業まで、学生っていう気分はなかったですね。空襲警報が鳴ると、一斉に授業中断して荷物持って帰るんですよ。空襲警報は結構ありましたから、女学校へ何しに行ったんだかわかんないですよ。それに体育の時間は長い軍刀をさした配属将校が来て、軍事訓練がありました。そうかと思うと、草むしりだの田んぼだのを手伝わせられたり、学校の体育館にミシンを入れ軍需工場に。わたしら一年生はボタン付けですよ。それから、新宿にある短大へ足利から通っていました。そこで洋裁を習い始めて、二年で卒業になるのに残っちゃって、研究生で学校に五年。で、そこに勤めちゃって、新宿の近くにお部屋借り一、二年いたのかな。そのうち、目黒の叔母の家から計十年ぐらい通ってた。

結婚の相手は、同い年でスキー場で知り合った人。二十八歳で結婚です。あの頃は、新婚旅行っていうと熱海だの湯河原だったのに、私はスキー板を担いでスキー場のある赤倉温泉に行っただけです。主人が王子の人だったので、豊島の一軒家に六十一年いました。私は家で洋裁。ちやうど洋服店が少なく、もう注文が引つ切り無し。また、山にもスキーにも行つたし、主人とスキーは六十四歳までやってた。子どもは三つか四つの時からスキーに行っていましたから、娘の方は私より上手でしたよ。

主人は八十歳で亡くなりました。定年になった次の年に脳梗塞に。半分ぐらいしかわかんないから大変で、最期の六年間は特養に入っていました。看病が二十年続き、一人になったことで、その後、海外旅行へ行くようになりました。二十カ国行ってきました。最初に行ったのはカナダで、アメリカを横断してニューヨークへ。十三泊っていうのもありましたよね。うちには誰も

いないので心配がないからね。十年ぐらい前からは、今度は国内旅行。大体北の方に行くのが多かったの。東北はほとんど全部回ってますよね。北海道は娘がお気に入り、十日間ぐらい仕事の休みを取って、娘の車でフェリーを利用して行ってきました。

女故に苦勞した時代。結婚したら仕事辞める、子供ができたらやめると、時代、時代の辛い経験をしてきた思いがあり、楽しかった時期は、やっぱり子供たちが独立してからですよね。自分の好きなことができたからね。

令和七年十月二日

聞き手 地域ボランティア 滝本徹男

